



41. キツネメバル *Sebastes vulpes* Döderlein

図版16

英名 fox jacobever
 リーシイ オークニ リーシイ モルスコイ オークニ
 露名 лисий окунь, лисий морской окунь
 地方名(北海道) マゾイ
 漢字 きつねめばる 狐目張
 アイヌ語名 ソイ

【形態】 体は側扁*する。頭の背部やえらぶたに多数の棘*がある。背びれには切れ込みがあり、その前は棘条*、後は前方の1棘条を除き軟条*である。クロソイ *Sebastes schlegelii* に似るが、キツネメバルには上あごの上方に3本の棘がないので区別できる。全長*50cmになる。背部から体側には灰色、黒色、灰褐色が混じる細かなまだら模様があり、北海道にはその模様が明瞭な「タヌキメバル」と不明瞭な「キツネメバル」の2つの型*がある。両者の中間型もあり、日本海側の島牧村沿岸でも生息が確認されている。

【生態】 日本海沿岸、神奈川県以北の太平洋、朝鮮半島東岸から南部に分布。卵巣内でふ化した仔魚*を出産する卵胎生*魚である。仔魚は5～6月に産み出され、その後稚魚*はクロソイやウスメバル *S. thompsoni* の稚魚と同様

に、流れ藻*に隠れながら沿岸を漂流する。4～5cmに成長すると、ごく岸近くの岩の割れ目などからあまり離れないで生活するようになる。全長20cm以上の魚の多くは、水深数m～100mの岩礁域がんしょうに生息する。

交尾*期、産仔*期は地域によって若干異なるが、島牧村沿岸では交尾期は11月ごろ、産仔期は5～6月であり、性成熟*する年齢および全長は、雌で満6歳、29cm、雄で満4歳、24cmと推定されている。

飼育下では出産後100日で全長6cm、200日で約8cm、1年で約11cmになる。年齢は耳石じせき*の輪紋の数で分かるが、高齢魚では輪紋が外側から見えにくくなるので、耳石を真ん中で切断し、その断面の輪紋を調べる。島牧沿岸での年齢と全長は、満2歳で16cm、3歳で19cm、4歳で23cm、5歳で26cm、6歳で28cm、7歳で30cm、10歳で35cm。最高齢は35歳、44cmときわめて長命。成長を近縁種と比べると、ウスメバルやエゾメバル*S. taczanowskii*より速く、クロソイより遅く、シマソイ*S. trivittatus*とほぼ同じ。

【漁業】 専門にねらう漁業はなく、刺し網、底建て網、定置網などでクロソイやエゾメバルなどとともに混獲*される。

北海道における漁獲量は、松山ひやま、後志地方を中心とした日本海側で多く、太平洋側での漁獲は非常に少ない。島牧村沿岸では、全長20cmから本格的に漁獲され始め、全長24cm前後のものが中心。漁期は3～6月と10～12月で、盛期は4月と11月。

市場での単価は20cm、200gまではクロソイとほぼ同じだが、それより大きくなると差が開き、大型の活魚は著しく高価である。島牧漁協市場では、200gの鮮魚は1尾70～80円だが、全長30cm、500gくらいの活魚では1尾3,000円前後の値がつくこともある。

【利用・加工】 刺し身、塩焼き、煮付けなどにする。白身あぶらで脂が乗り、ソイ類のなかで最も美味とされる。料理法はクロソイの項も参照されたい。

【調査研究】 本種は単価が高いことから、北海道の日本海沿岸において栽培漁業*の実施が要望されてきた。

しかし北海道における生態や漁業実態に関する知見が乏しかったため、1998年に島牧村と島牧漁協、北大水産学部、後志南部地区水産指導所、道立中央水試によって調査が行われた。本文中で解説された年齢と成長、繁殖などに関する情報は、この調査によるものである。

人工種苗じゅひょう*生産は1983年に福島県で始まり、1996年には島牧村や羽幌町はぼろで試験的に行われた。現在では資源増大を目的に、寿都町すつ、島牧村、戸井町で人工種苗の放流が行われ、分布や移動、漁獲状況と放流効果などが調べられている。